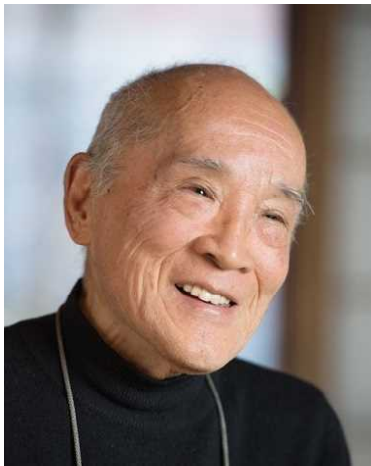




谷川俊太郎(たにかわしゅんたろう)

校長室より

暗唱だより
令和7年7月
第三吾嬬小学校長
川中子 登志雄

雨の少なめの梅雨が続いています。すでに晴れると猛暑になる7月の始まりです。夏休みまであと3週間弱。暑さに負けず、がんばりましょう！ 熱中症にはくれぐれも気をつけて！

7月の課題は『生きる』

『二十億光年の孤独』などの詩集で知られ、作詞や脚本、翻訳でも活躍した戦後を代表する詩人・谷川俊太郎さんが昨年11月13日、老衰のため92歳でこの世を去りました。

谷川俊太郎さんは、1931年12月に東京の杉並区に生まれました。戦争まただ中の子ども時代、学校の先生から殴られることに納得できず、学校に行くのを止めてしまったといいます。谷川さんは、1948年ころから詩の創作を始めました。みなさんにとっては、「詩人・谷川俊太郎」よりも、『スイミー』『フレデリック』など、レオ・レオニの絵本、「マザーグースのうた」やスヌーピーシリーズの翻訳や「かっぱ、かっぱかっぱらって…」などで有名な『ことばあそびうた』などのほうがなじみがあるかもしれませんね。

『生きる』は、谷川さんが1971年に発表した作品です。国語の教科書にもよく登場する有名な詩です。

「生きているということ 今生きているということ」と始まる五つの連（詩のかたまり）からなる詩ですが、今回の課題はその最初の2連を覚えてもらいます。

皆さんは、「生きる、ってどういうこと？」と聞かれたら何と答えますか？ 谷川さんは詩人ですから、その答えを詩で表現しました。出てくる言葉にむずかしいものはないので、皆さんにも分かるでしょう。（中に出てくる「ミニスカート」とか「プラネタリウム」というのは、この詩が書かれた頃にみんなに知られるようになった、新しいものでした。膝が見えるような短いスカートは、それまではなかったんですよ！）

先日の朝礼でもお話ししましたが、頭の良くない私が、この詩の意味がわかるようになってきたのは、つい最近のことです。私はこの詩を、中学校の国語の教科書で知りました。その時は、生きるってことについて考えることもなかったのだと思うと思います。だんだん自分が死に近づいてきて、生きるということについて深く考えられるようになってきました。

私がこの詩の中で特に好きなのが、この第2連の最後に出てくる部分です。そこで谷川さんは、生きる、というのは「すべての美しいものにであうということ そして隠された悪を注意深くこばむこと」と表現しています。私たちの教育目標「自立 自ら学び、考え、行動する人」と同じだなあと思うのです。